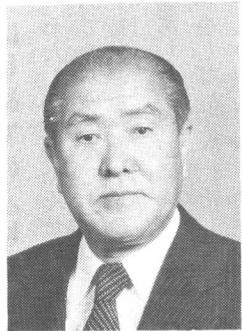




発行所
 財団法人 漁船海難遺児育英会
 東京都千代田区内神田
 2丁目2番1号
 鎌倉河岸ビル6階
 電話 03(3256)1981
 FAX 03(3256)1982



財団法人 漁船海難遺児育英会
 理事長 鈴木善孝

新しい年を迎え、皆様方の御健康と、ますますの御発展を心からお祈り申し上げます。

当育英事業は、漁協系統を軸といたしまして漁業関係者及び一般の方々の心温かな御支援によりまして、「漁船海難遺児を励ます運動」も順調にその成果を見、他の育英事業の水準に一步近づきつつあることはこの上もない喜びといたすところで、ここに皆様方の御芳情、御支援に対し、衷心よりお礼申し上げる次第であります。

お蔭様をもちまして、水産界全体の総意として発足しました当育英会も設立二十二年目を迎えた平成二年に、ようやく幼児から大学生まで一貫した育英制度が整備されましたが、今年はその上に立って、皆様方の御厚意をより有効に活かすために、事業内容の細部についての見直しと改善に努めるとともに、事業基盤の一層の整備に鋭意努力する所存でございます。

しかし、近年の教育費は増高しており、これに対応しつつ事業のより充実を図らねばなりません。そのため基金は十分といえない現状から、第六期の募金運動を引続き推進いたしております。

御高承のとおり、我が国の経済情勢は金利の低下など本事業にとっても厳しいものとなっております。また、最近の漁業は、公海においても水産資源の保存・管理等の観点から、漁業規制を求める動きが本格化しており、また我が国周辺水域の資源状態の悪化な



理事 石川 雅計

明けましてお目出度うございます。今年の関東地方の元日は、昨年来に発表された週間天気予報とはまるで逆の穏やかな晴天で迎えることが出来ました。

今年の日本に課せられた最大のテーマは、世界の平和と繁栄のための新しい秩序作りに如何に貢献してゆくかということでありますが、その航海に乗り出そうとする日本を祝福するかのよ

うな穏やかな快晴をもって元日を迎えられたことは、まことにご同慶の至りであります。私は正月三日穏やかな天

気に誘われて、妻と二人新宿発のハトバスで隅田川七福神巡りに出掛けてみました。七福神は江戸時代を発祥とする日本の庶民文化の中に根づいた信仰



漁船海難遺児を励ます全国協議会
 会長 池尻 文二

新年明けましておめでとうございませう。昨年は湾岸戦争、ソ連邦の崩壊等国際情勢はかつて経験した事のない程大きくまた激しく変貌する年となりました。

また、水産業界にとっても流網漁業が操業禁止に追い込まれたこと、北洋漁業の操業も一段と規制強化される等誠に厳しい状況におかれましては、

これら状況の中、海上での遭難事故も漸次減少傾向にあるとはいえ、相変わらず痛ましい事故が発生しております。昨年度の、漁船海難遺児を励ます運動については平成二年度より新たに発

の中から形造られ今に伝えられる福徳の神々であります。その心は世の中が暗い時には救いの手を、明るく平和な時には益々の福徳を授けてほしいという、いつの世も変わらぬ庶民の素朴な願望にあるとされています。七福神の祭である社寺は、それぞれに老若男女で大変な賑わいでした。

私は、この光景を目のあたりにして、価値観が変わったと言われる日本の将来も捨てたものでないことを実感いたしました。このような庶民文化と

共にある日本は、国民一人一人が叡知を絞れば世界に評価される日本独自の国際貢献策を見出すに当たって他の国に遅れを取るものではないことを確信いたしました。

世界の平和と繁栄を実現するために人類が共通の価値観を持つことにより実現可能と言われております。

このような価値観は、正しい教育に裏打ちされた庶民文化によって人々の心の中に醸成されるものと思われま

す。漁船海難遺児育英会の創設の意義は、まさに七福神に代表される福徳の心を持つた科学技術者を世に送り出すため

の人作りにあると思えます。どうか皆さん、これからも勉学にいそしまれ、心にゆとりのある立派な青年として成長されることを心からお祈り申し上げます。(漁船保険中央会専務理事)

新年明けましておめでとうございます。奨学生の皆さまには、希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。私は、本誌「育英会だより」を拝読するたびに、皆さまと同じ浦浜に住む婦人の一員として又、母として、一家の柱を亡くされたご家族のお気持ち、お子様等の将来を担うお母さまのご苦労が手に取るように伝わってまいります。と同時に明るさとたくましさ、心を打たれ、ときには感涙にむせぶこと

評議員・奨学生選考委員
 黒石 孝一

新年明けまして、おめでとうございませう。年頭にあたり、心を新たに足もとの第一歩から、たしか活動をした

余の歩みにおいても、この一、二年は特に意義ある年でありました。鈴木理事長をはじめ事務局の皆様のご努力

や、併せて「励ます協議会」の皆様のご協力等によりまして、平成二年の育英会設立二十周年記念式典の盛大な開催はもとより、事業拡充の為の新企画も実施されましたことはたいへん喜ばしく、関係の皆様と共に心より慶祝申し上げます。

これ等育英制度の整備拡充に相関して、その受益者の立場になられる、遺児の皆さんやその保護、後見の方々には、失くされた父兄を偲びながらのきびしい日々の生活に打ちかかって、しん

の強い、健康な身心を持つお子様に成人されますよう、そして温かい社会を開拓するすばらしい人材に育っていただけるようにと、祈念してやみませ

ん。「隣人のために何かしてあげることのできる心豊かな人として生きる」ことすらあります。

皆さまにとって、大地のごとく不動の姿勢をとりつづけ前進していっていらっしゃるお母さまのパワーこそすばらしいものであると思わずにおられません。私共漁協婦人部では、そんな女性の力が十分発揮できる明るく住みよい漁村を築くことが出来ますよう、種々運動を展開しております。

その一つに「漁船海難遺児を励ます募金運動」がございます。そして、昭和六十二年度より「漁村婦人一人一月一円募金運動」とし部員総参加で組織を挙げて実施しております。又、津々浦々で開催されます魚まつりやバザー、研修会等の催しものの際、募金箱を手一般の方々へ協力の

とを身近かな生活の中で実行するよう、努力精進したいものです。この心くばりな誠実な積み重ねがされた時、皆さんの二十一世紀が希望、期待の未来となりましよう。当面の学業に力いっぱい相対する若人として、その双肩の責務を自覚されて、健康な日々前進でありますよう、心からお願いたします。

(全国市町村教育委員会連合会事務局 長)

お願いに廻ります。こうして、微力ながらもこの運動を継続してまいりました。

今後も私共は暖かい心をもちつづけ皆さまを見守っていく所存でございますので、どうぞ強くたくましく又、明るい生活態度を持ちつづけ、そして社会に貢献できる成人へと成長して下

さい。この育英事業は私たちの協同組合運動の原点ともいえる事業です。益々この事業が浜の隅々まで行き渡ることをお祈りいたします。

(全国漁協婦人部連絡協議会会長)

我が幸は我が手で



漁船海難遺族生活実態調査員 林 千代

山高しげり先生は、昭和二十五年、戦争で夫を失い子どもをかかえた母達を集めて全国未亡人団体協議会をつくりました。この組織は長い間「全未協」と称されておりましたが、現在は全国母子寡婦福祉団体協議会と名称を変え、地域によっては母子会とか母子福祉会などと呼ばれていると思えます。標題の「我が幸は我が手で」は、この会発足に際して掲げた先生の理念で、夫がいなくとも人に依存せず、何か頼らず、大地に足をつけ自らの手を使って生活していこうと呼びかけたのです。先生はそのために「会」をつくり、参議院議員となり、昭和三十

九年の母子福祉法の実現にまでこぎつきました。五十七年には、「母子及び寡婦福祉法」と「及び寡婦」の四文字を入れ対策の拡大をはかりました。

これらの事実は、自前の力で生活の安定を得るには、多くの人々との協同、連帯、運動、政治への関心とつながりそして生活の安心を保障する政策が必要不可欠であることを教えてくれるのではないのでしょうか。自立とは、一人で肩肘はって誰の世話も受けない代りに誰の手助けもしないという生き方ではなく、血縁の枠をこえて他の人々を受け入れる柔軟さを有することだと思えますし、また制度・政策にのみ依存する姿勢をよしとしないのはいうまでもありません。

社会福祉専攻の私が育英会の「漁船海難遺族生活実態調査」を担当して九年、毎年各地にうかがい、多くの方々とお会いしてきました。そのたびに現存している社会福祉の利用は不十分であり、社会福祉という考え方の浸透がきわめて不足していると実感しています。協同の価値について再考する必要があるのではないのでしょうか。

(淑徳短期大学教授)



小学校1年 かみむらみか

はじめてのふゆやすみ

わたしが、一ねんせいになってはじめてのふゆ休みです。二学きのおわりの日に、

「あしたからふゆ休みです。みんなながをしないようにそして、とおいところにいてはいけません。」とせんせいがいました。それで、はなしがおわると、ふじいろのはこをく

ばりました。それには、大浦きょう土カルタとかいてありました。中みは、おにいちゃん・おねえちゃんたちがかいたえやぶんしょうでした。大浦のま

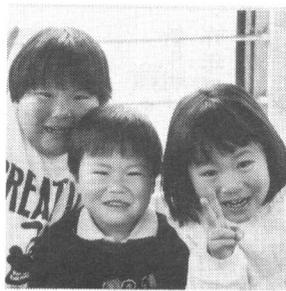
いてありました。

おしょう月に、おとうとやしんせきのみんなでカルタとりをしました。とってもおもしろかったです。

ことは、二ねんせいになります。いっしょうけんめいがんばって百てんをたくさんとりたいたいです。おとうとなかよくしておうちのおてつだいががんばりたいとおもいます。

(鹿児島県、大浦町・大浦小学校)

心の中のお父さん



小学校4年 黒坂美津子

私のお父さんは、私が児童館の年長の時に亡くなりました。お父さんは船に乗っていて、病気になるって死んでしまいました。お父さんは病気がたがって、何日も何日もあんなにが

ばった。そんなお父さんにわたしはそんなに無理しないで自分の体とそうだしして仕事をすればよかったのに、と思います。

お父さんが入院してから、いろんな病院にうつるので、わたしはそんなに重い病気のかなーと心配になってきました。

お父さんが入院して何カ月かしてお父さんが大きい車に乗って帰ってき

た。わたしは何が何だか分からなく

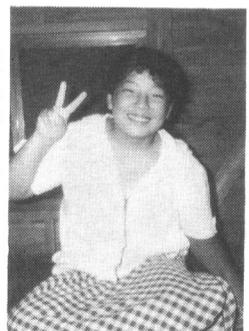
り美幸お姉さんに聞いた。そしたら姉さんは泣きながら、「みっ子のお父さんは死んじゃったの」と言い、わたしをだっこしてくれた。わたしは、お姉さんにだかれてさじきの方へ行つた。そしたら、顔に白いぬのをかけていた。わたしは、お父さんをおかんに入れるまで涙は一粒も出ませんでした。おかんに入れる時涙が出た。とっても悲しかった。けどわたしの目にお父さんの姿は見えなくてもわたしの心の中にお父さんはいます。

わたしのお父さんの思いでは、家族いっしょに海へ行ってつりをした事、お父さんがわたしの背より大きい、いかをつつてきてくれた事、冬にはス

ケートにつれていってくれた事などいろいろ思い出があります。これからもお姉さんと弟とわたしと三人で、お母さんを大切にがんばって行きま

す。お父さんいつまでも見守っててね。(岩手県、種市町・中野小学校)

私達はがんばっています



中学校2年 浅井都

私が小学四年生の時お父さんが死んでしまいました。私はまだ小さかったのでその時のことがあまりよくわかりませんでした。でも自分の前でお母さんが泣いているのを見てお父さんが死んでしまったんだと思いました。

その時は本当に信じられない気分でした。でも毎日何かつまらなくて、家の中もすぐくさみしくていつも父の思い出話をしていました。

その頃はふと父が帰ってくるんじゃないかと思うくらいでした。今ではお母さんがお父さんとお母さん役をしています。お母さんは毎日っらい顔をせせりに仕事にがんばって、何よりも私達のことを考えてくれて

います。そんなお母さんに私は感謝しています。だからおねえちゃんと協力して家のことを手伝っています。

でも、おねえちゃんみたいにうまくいかないけど、おねえちゃんにいろいろと教えてもらって、いまではおねえちゃんと同じくらいにできるよ

うになりました。だから私が、大きくなったらお母さんを楽にして、今度私達がお母さんに、親孝行をしたいと思

います。世の中には私達と同じような思いをしている人は、沢山いると思うけど、その時感じた悲しい思いや、くやしい気持ちを忘れず他人のことを考えられるそんな人に、私はなりたいと思

います。(大分県、蒲江町・河内中学校)

一年を振り返って



高校1年 後藤明子

去年の今頃は受験のため、気がおちつきませんでした。おかげで高校に入ることができ、早くも一年がすぎようとしています。

部活は運動が苦手なので、バスケット部のマネージャーをしています。普段はそんなに大変ではないのですが、夏休みの合宿のとき、みんなの料理を作るのが大変でした。一生懸命作ったのですが、量が多いせい

いか、味つけがうまくいきませんでした。私達の部は、人数が少ないせい

大学生としての自覚をもって

高校三年 木屋美穂

高校三年間もあつという間に過ぎ、今年からは大学生になってしまいました。高校時代はつらい事もありましたが楽しかったです。

大学生になるのに期待と共に不安もあります。勉強面では、高校で学んだ事を基礎に専門的な事を勉強しなければなりません。自分のやりたい事はわかってはいますが、そのためにどうい

う風な事を勉強すればいいのか全くわかりませんので、本当にそれが自分にできるかどうか不安です。また、親と離れて暮らすのですが、私の場合、姉と暮らすのですから、友達と比べれば寂しくないです。安全かもしれませ

んが、育英会から受ける奨学金は全て授業料にするつもりです。母にもできるだけ負担はかけたくないので、しっかりしなければいけないと思

っています。一杯吸収し、大学生活をenjoyしたいと思っています。

(高知市・私立土佐高校)

(注) 木屋さんは、この春、慶応大学進学が決定しております。頑張ってください。

たのも、みなさまのおかげだと思っています。これからも、素直な気持ちでがんばって行きたいと思

います。(宮城県、志津川町・県立志津川高校)

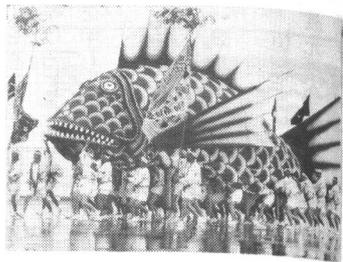
お知らせ

◎平成4年度

第一回願書締切日は

平成4年4月25日

◎奨学金送金日は平成4年5月25日



21世紀に夢つなぐ
11回全国豊かな海づくり大会
15,000人集う 愛知県・豊浜港

愛知県南知多町豊浜港で、天皇・皇后陛下の御臨席を仰ぎ、標記大会が開かれました。今大会のテーマは「夢拓き未来へ贈る海づくり」。

式典は、長木一愛知県漁連会長の開会のことばで始まり、大会会長等の挨拶の後、天皇陛下のお言葉を賜りました。また、栽培漁業・漁場保全功績団体、作文・写真入賞者の表彰が行われました。

引き続き「鯛まつり」「漁船」の海上パレードが繰り広げられた後、天皇・皇后陛下が、クルマエビ、クロダイの稚魚を放流され、大会は盛況のうちに終了しました。

式典会場には、イベントブースが設けられ、あいにくの天候にもかかわらず、一万五千人の人で賑わいました。

会場では、漁協婦人部をはじめ、県漁連、信漁連等の方々が熱心に「水色の羽根」募金を呼びかけ、多くの来場者より御支援をいただきました。



よろこびの
片桐榮七さん

紺受褒章を受賞

去る十二月三日、東京築地の中央魚類株式会社・片桐榮七会長に、紺受褒章が賜与されました。同氏は六十一年に続き二度目の受賞ですが、本紙七月号の記事にもありますように、「長生きもさかなのお陰」と、本育英事業に多大の御協力をいただいております。

子供に助けられて

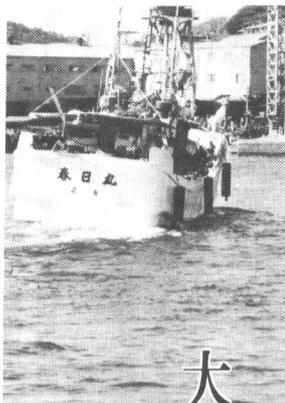
岩本信子

昨年は色々お世話になり、おかげ様で長男も希望の大学に進学し、自分なりの人生を歩き始めました。本人にとってはそれなりに大変なようですが、頑張っているようです。親としては心配事は絶えないものですね。入学すればしたて今度は無事卒業出来るか、まだまだ心配の種は絶えません。すべ

では、本人次第だと思っています。昨年の暮、私は歯が痛くて病院に、次は足の指にばい菌が入ってこれ又病院へと年末の多忙な時期に病院通いしましたが、長男が冬休みで帰省していたので、自動車を運転させるのは、心配でしたが、全部用足してくれまし

た。ほんとうに助けられた感じがたまりました。これまでどんなに身体の具合が悪くても、すべて一人でやって来たが、色々考えながらも、仏様にお願い、これまでにお願いに、十五年の月日が立ちましたお父さん」と話している内に涙が出て止まりませんでした。子供達の言うのには「お母さんも年取ったね」だって。ほんとうにその通りですね。

これから先、あんまり子供達に重荷にならないように少しづつ子離れも必要ですね。いつかは、必ず一人になるのですから。それまで親子三人で力を合わせ、助け合って生きていこうと思っています。



大きな愛で育てよう

母の愛・担当者のこころ



子供達と共に

藤原初美

新年明けましておめでとうございます。いつも私達海難家族に温かい励ましと心づくしを頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

早いもので主人が亡くなって昨年は十三回忌をすませました。当時三才、五才、小四の三人の子供達を抱え、目の前が真暗になった事が昨日の様に思い出されます。主人の元へ行こうと思っ

た事も何度かあり、長男から「そんな事をしてもお父さんは喜んじやれない」と言う言葉で我に返った事もありました。

河村参事さんの口添えて地元漁協に務めさせて頂き温かみのある中で働かせてもらってますが、子供が小さかった

主人に子供に皆様にありがとう

西田幹子

平成の年と共に船出した我が家も、ようやく主人の居ない生活にも慣れ、今では父親の事をいろいろと親子で話をするようになりました。やさしかった事、厳しかった事、心の広い人であった事など思い出話が出来ると、あつた事なご縁で出たお話を、また親子のほげみにもなります。

主人の居なくなったのと同時に、大男、長女は、家元を離れての生活は大変でしたが、今では私達は長男の居るこの地・宮崎に来て、親子三人での生活です。専門学校に行っている娘もいよいよ卒業でこちらに帰って就職する

のをおいて家を出る時は後髪を引かれる思いでした。母が影に日なたになつて力添えをしてくれたおかげで、今までこれと感謝の気持ちでいっぱいです。親孝行出来ないけど三人の子供達を一生懸命育てる事で母も安心してくれると思

生き甲斐を感じて

愛知県漁連 吉田圭子

新年あけましておめでとうございます。いよいよ平成四年が始まりました。遺児の皆様、又、御家族、関係者の皆様には楽しいお正月を迎えられた事と存じます。

昨年、愛知県に於いては「第十一回全国豊かな海づくり大会」が開催され、当日雨天にもかかわらず募金に協力頂いた各県の方々、並びに関係者の皆様には格別の御協力を頂き誠にありがとうございました。

この誌面をお借りして衷心より厚くお礼を申し上げます。さて、昨年愛知県では六件の海難死亡事故が発生いたしましたが、不幸中

募金活動に懸命です



兵庫 漁連 反橋良子

あけましておめでとうございます。皆さまは、お健やかに新春をお迎えのことと思います。

海難遺児を励ます兵庫地方協議会の事務を担当して二年余、大変うれしかったことは、一昨年になりましたが、「漁船海難遺児を励ます全国のつどい」の開催時に浜坂町漁協の森田美恵子様が、遺児奨学生母親代表者に選ばれ、作文を発表されました事、一緒に大会に参加された竹野浜漁協の渡辺茂美さん、お母さん、皆さん大変明るいのに感心いたしました。逆に励まされ勇気づけられたことを昨日のこのように想い出されます。

平成二年度より第六期募金運動も始まりました。本県でも系統団体、各漁協に目標額達成をお願いしているところです。幸いにも心良く協力していただいで、大変感謝しています。また、漁青連、漁婦連の皆さん方も常時、海難遺児育英資金の募金活動を行っていただいているのをはじめ、昭和五十三年以来継続して毎年多額のご寄付を育英会へ送金していただいている方、「励ましおじさん・おばさん」会員等遺児達を励まされている沢山の皆様の心温まる善意ご協力は、遺児達の大きな心の支えになっていて、感謝しています。

本県では、不幸にして、操業中の遭難や不慮の災禍に遭遇され、あるいは、業半ばにして、物故された漁業関係者の御霊の平安を願って、昭和五十一年より毎年高野山で「兵庫県漁民物故者合同供養祭」が挙行されています。私も昨年参列し、身の引き締まる思いと共に漁船海難事故の絶滅を念じました。

皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

